

第3学年図画工作科「ここにいるよ 附坂小の妖精」

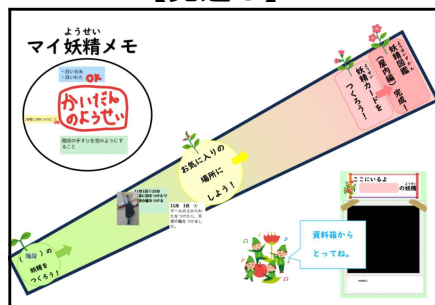
学習指導者 毛利 二実子

校内のお気に入りの場所に合うポーズで撮影した小さな自分の写真を「附坂小の妖精」に見立てました。そして「附坂小の妖精図鑑をつくろう」という題材のゴールに向かい、学習計画や学びの過程が位置付けられた「マイ妖精メモ」を基に自分がすべき課題を決め、自分に合った材料や表し方を選びながら、妖精をつくったり、お気に入りの場所をつくりかえたりしていきました。

〇〇の妖精を仕上げよう

お気に入りの場所にしよう

【見通し】



【行動】

自分で学びを進めることができるようにするために、材料コーナーを設置し、自分の表したいことに合う材料を自由に選んだり、共有した活動時間を手元の1人1台端末でいつでも確認したりできるようにしました。子供たちは、色



【振り返り】



本時、自分がしたことと今日つくったものの写真を「マイ妖精メモ」に位置付け、本時の学びを捉えました。「マイ妖精メモ」に位置付けることによ

って、見通し場面で想定していた通りに活動が進んだかや、ゴールまでどれだけ近付いたかを捉える姿が見られました。



「マイ妖精メモ」を基に、本題材のゴールとこれまでの学習の成果、現在地を確認し、自分の進み具合に合わせた課題を決め、見通しをもって取り組むことができるようにしました。活動時間について話し合って共有しました。



や素材に目を向けて材料を選び妖精を装飾したり、図工室や図書室、階段などの場所を妖精に合った場所になるようにつくったりしていきました。できた妖精やお気に入りの場所の写真を撮影し、その変容を感じる姿が見られました。

成果と課題

○自分がすべきことを整理することが苦手な子供にとっては、「マイ妖精メモ」ですべきことをはっきりさせることが有効だった。また、子供が「試したい」と思った時にすぐに試行錯誤することができる環境がつけられていた。

▲本時の見通し場面で自分がすべき課題を設定する姿が見えづらかった。ICT機器を活用するなど、一人一人が持っている異なる課題を授業者が一目で把握できるような工夫が必要だったのではないかな。